

生物多様性横浜行動計画(ヨコハマbプラン) 3か年(平成23~25年度)の振り返り(概要版)

横浜市は、人口約370万人の大都市でありながら、身近な場所に豊かな自然が残されています。そして、それを街の魅力ととらえ、守り・育て・楽しむ活動が市民や学校・企業等により活発に行われています。

このような横浜市の特性を踏まえ、生物多様性基本法に基づく地域戦略である「生物多様性横浜行動計画(ヨコハマbプラン)」を平成23年4月に策定・公表しました。

生物多様性横浜行動計画(ヨコハマbプラン)は、2025年度(平成37年度)を目標年度とし、将来像を「身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし」としました。中長期的な目標である「将来像」を実現するため重点推進施策「6つの重点アピール」、「4つの取組方針」及び2013年度(平成25年度)までの「具体的取組と目標」から構成されています。

策定から3年が経過し、「具体的取組と目標」の計画期間が満了したことから、これまでの取組を振り返り、取りまとめました。

生物多様性横浜行動計画(ヨコハマbプラン)策定時は、「生物多様性」という言葉の認知度も低く、まずはその意味を伝える普及啓発を含めたプロモーションに力を入れて取り組んできました。プロモーションは、普及啓発のほか、環境教育、活動支援を中心に進め、市民、企業の皆様と連携しながら自然環境や生き物への理解を深める取組を進めてきました。その結果、生物多様性について、一定の認知は得られたものの、まだ引き続き、取組が必要な段階です。



梅田川での生き物調査

生き物調査についても、市民参加型で行うことで、普及啓発の効果が得られます。生物多様性の現状を理解するための生き物データの充実との両面の効果を狙って調査を行ってきました。特に市内の小学生による生き物調査が始まったことにより、その成果が見え始めています。



小学生生き物調査 調査票

また、横浜つながりの森における取組、谷戸環境を活用した取組、つながりの海に位置づける沿岸海域での取組など、それぞれの環境をいかした普及啓発や保全の取組を進めました。また、みどりアップ計画を中心とした樹林地、農地の保全・再生・創造の取組を進めたことで、樹林地の減少傾向が鈍化するなど、緑の総量維持に一定の成果が見られます。

生物多様性横浜行動計画(ヨコハマbプラン)の主旨である、子どもたちの自然体験の機会を増やしていくこと、自然体験の場であり、生き物の生息・生育の場である自然環境を次世代に引き継いでいくことを進めるためには、これらの取組を継続することが重要です。



緑地の指定
川和特別緑地保全地区(都筑区)

「身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし」の実現に向け、引き続き生物多様性の保全の取組を推進していく必要があります。



取組方針1 普及啓発

誰もが都市生活のなかで、自然や生き物に親しみ、実践できる取組をすすめます

重点アピール1 b-プロモーション

「環境教育出前講座・生物多様性でYES!」、「横浜市環境保全活動助成金」「横浜環境活動賞」を中心に、プロモーションを展開しました。実施にあたっては、「子どもを主役」とした取組を重点に置いて進めました。平成24年度は、生物多様性自治体ネットワーク総会の横浜開催と横浜市の代表選出に合わせ、普及啓発キャンペーン「ヨコハマbフェスティバル」を開催しました。



環境教育出前講座

ヨコハマbフェスティバルコアイベント(表1) コアイベント参加者合計約5,000人

ヨコハマbデイ2012	CEPA ジャパン/共催:横浜市 他
生物多様性自治体ネットワーク定期総会/ミニフォーラム	生物多様性自治体ネットワーク/横浜市
第2回生物多様性全国ミーティング	UNDB・J・環境省/共催:横浜市
ヨコハマ環境行動フェスタ2012	横浜市

環境教育出前講座(表2)

目標値	平成23年度	平成24年度	平成25年度
130回	123回	115回	118回
	10,053人	10,135人	10,228人

環境団体への活動支援(表3)

環境保全活動助成金	目標値	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		8団体	744千円	11団体	966千円	10団体	838千円
環境活動賞	20団体	11団体		22団体		18団体※	

※平成25年度に審査、平成26年度に表彰式を実施しました。

【b-プロモーションの評価と課題】

第2回生物多様性全国ミーティングの開催など全国的な動きを捉えたプロモーションを市民団体・企業等と連携しながら実施することができました。「出前講座」のメインテーマを「生物多様性」としたり、環境活動賞に生物多様性特別賞を設けたり、制度の改定を実施しました。企業活動については先進的な取組が出始めてはいますが、広く企業活動に定着しているとは言い難い状況です。

重点アピール以外の取組

森に関する情報発信や森を知り親しむ行事等を開催するウェルカムセンターを平成24年度に、新治里山公園にはる里山交流センター(緑区)、横浜自然観察の森自然観察センター(栄区)、平成25年度に、寺家ふるさと村四季の家(青葉区)、舞岡ふるさと村虹の家(戸塚区)、環境活動支援センター(保土ケ谷区)を整備しました。

また、これまで取り組んできた海外の希少動物に加え、日本産希少動物や横浜市に生息する希少な野生動物の飼育・繁殖に取り組みました。



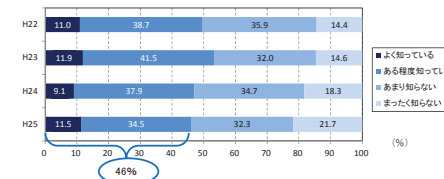
横浜自然観察の森
自然観察センター

【取組方針1普及啓発の評価と課題】

平成25年7月に実施した「環境に関する市民意識調査」では、生物多様性という言葉を知っており、一定の浸透が図られているものの、引き続き取組が必要です。

環境関連の市民団体とさらなる連携・協働を進め、プロモーションを進める必要があります。

(図2: 環境に関する市民意識調査
(1,000人の登録モニターによるインターネット調査)より)



取組方針2 保全・再生・創造

地域の特性に応じた保全・再生・創造の取組をすすめます

重点アピール3 『谷戸』環境の保全と活用

市民参加による「田んぼの生き物調査」により、谷戸を活用して自然環境への理解を深めました。

田んぼの生き物調査実施内容（表4）

年度	場所	実施内容
平成23年度	1か所	新治恵みの里（緑区）
平成24年度	6か所	環境学習農園（瀬谷区・青葉区）、田奈恵みの里（青葉区）、農のある地域づくり協定（緑区・青葉区）、農地流動化促進事業の市中間保有地（泉区）
平成25年度	3か所	田奈恵みの里（青葉区）、田奈っ子農園（青葉区）、いずみ野小学校（泉区）

【『谷戸』の保全と活用の評価と課題】

- ・生き物調査の他にも、イベントでの里山環境や市民の森のPR、谷戸の現場を活用した職員向け研修を実施し、生物多様性や谷戸環境の大切さのPRを実施しました。
- ・谷戸の理解を深めるために市民参加による調査手法を活用するとともに、生き物の生息・生育場所である谷戸環境を生物多様性の普及啓発の場としていく必要があります。



田んぼの生き物調査

重点アピール4 つながりの森

平成24年7月「横浜つながりの森構想」を策定しました。マップの作成やスタンプラリーの開催などを通して、横浜つながりの森の魅力を伝えるとともに、自然環境の保全と利活用のあり方について検討しました。

【つながりの森の評価と課題】

学校、市民団体、企業等を対象としたアンケートやワークショップの実施により市民や活動団体の意見を反映した構想を策定し、区局連携した取組をスタートしました。引き続き、構想に掲げた取組を着実に推進するとともに、森を支えている市民団体・活動拠点のつながりの強化、人材育成を進めていく必要があります。

「横浜つながりの森構想」の概要

「横浜の生物多様性の宝庫である「横浜つながりの森」を市民全体で、体感・感動し、次代、次々代につないでいく」ことを将来像として掲げ、「生き物の多様性を大切に」と「自然を楽しむ」を2本の柱として、取組を推進していきます。



横浜つながりの森エリア内の緑地（横浜自然観察の森）

重点アピール以外の取組

地区指定による緑地保全や生物多様性に配慮した公園整備など、横浜みどりアップ計画を中心とした保全・再生・創造の取組を推進しました。

横浜みどりアップ計画による主な保全の取組（表5）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
緑地保全制度による地区指定の拡大（新規指定面積）	104.6ha	107.6ha	109.7ha
市民協働による緑地維持管理事業（保全管理計画策定）	3か所	5か所	3か所
水田の保全・活用の推進（多面的機能を持つ水田の保全）	109.7ha	114.4ha	118.8ha

身近な生き物に着目したまちづくり

環境活動助成金を活用し、チョウがくるピオトープづくりへの活動支援を行いました。また、小学校へ専門家を派遣し、ピオトープづくり及び活用を支援しました。

【取組方針2 保全・再生・創造の評価と課題】

- ・みどりアップ計画を中心とした各種事業により多くの樹林地・農地の保全・再生・創造を進めることができました。谷戸や樹林地、身近な緑が持っている生き物の生息・生育空間としての役割や景観保全の役割を理解してもらうことで、保全と活用を推進していく必要があります。
- ・緑地保全、生物多様性に配慮した公園整備、都心臨海部の緑化による賑わいづくりなど、みどりアップ計画を中心とした保全・再生・創造の取組をさらに推進していく必要があります。

取組方針3 しくみづくり

保全や評価などに取り組むしくみづくりをすすめます

重点アピール2 鳥類の生き物探検と市民参加の生き物データバンク

- ・携帯用鳥類図鑑「ミニミニ野鳥図鑑」を作成し、公園レストハウス等で配布しました。また、小学校において、「ミニミニ野鳥図鑑」を使用した授業を展開するため、専門家の派遣による出前講座を実施しました。
- ・平成25年度は陸地の生物調査を実施するとともに、小学生による、『こども「いきいき」生き物調査』を開始しました。
- ・横浜市が実施している生物調査結果の活用方法、データバンク構築の検討を進めました。



ミニミニ野鳥図鑑を活用した授業

【鳥類の生き物探検と市民参加の生き物データバンクの評価と課題】

庁内に蓄積した情報のデータベース化に取り組み、検討を進めることができました。今後も、情報収集や分析・発信を実施するため、企業や大学・研究機関等との連携をより積極的に進めていく必要があります。今後も、生き物調査を継続していくとともに、市民が自ら生き物を調べ、主体的な活動へとつながるよう、知識の向上にも取り組んでいく必要があります。

重点アピール6 生物多様性を守り、豊かにするしくみづくり

平成24年度は、「CBI（都市の生物多様性指標）」を横浜において適用するための共同研究を国連大学高等研究所とともに実施しました。また、25年度は、都市におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関する事例調査を実施しました。

【生物多様性を守り、豊かにするしくみづくりの評価と課題】

国連大学高等研究所や国土交通省と連携し、生物多様性指標づくりに着手し、課題を整理しました。今後も継続的な生物相調査の実施が必要です。

重点アピール以外の取組

横浜市役所の率先行動として、「横浜市 ISO 環境マネジメントシステム」の行動目標に「生物多様性の取組」の項目を新たに設定するとともに、研修による意識啓発に取り組みました。

【取組方針3 しくみづくりの評価と課題】

河川・海域・陸地での専門家による生物調査及び市民参加による生き物調査を継続的に行い、データを蓄積しました。今後は、蓄積されたデータによるデータバンクの構築に向けた検討をすることが必要です。

取組方針4 まちづくりと経済活動

生物多様性に貢献するまちづくりや経済活動の支援をすすめます

重点アピール5 つながりの海（きれいな海づくり）

水質・底質・生物相などの各種調査を実施しました。また、民間企業との共同研究による生物生息環境の改善効果の実証実験を検証する研究等を開始しました。

【つながりの海の評価と課題】

付着性生物に配慮した護岸構造や藻類の定着に配慮した浅場形成等検討を行うとともに、関係機関との調整を進める必要があります。



二枚貝による水質浄化展示

重点アピール以外の取組

「環境未来都市・横浜」の実現に向けて、水や緑、港や歴史ある建物、環境に配慮した住宅などのある多様な街並みが、低炭素交通網やスマートグリッドなどで結ばれるとともに、災害に強い都市づくりを進めています。また、農によるまちの活性化と新たなビジネスモデルの構築を目指し、企業等からの地産地消の提案事業に対し、支援しました。

【取組方針4 まちづくりと経済活動の評価と課題】

- ・生き物を身近に感じることができ、都心の街並みと海・川をいかした豊かな環境のあるまちづくりを進めていく必要があります。
- ・また、企業との連携を推進し、環境分野の技術・商品による新たなビジネスモデルの構築による経済活動の活発な展開や、生物多様性につながる環境分野の取組の促進につなげていく必要があります。